

第7章 用語解説集

■ 予防・防止

起こる可能性のある被害を予測し、適切に対処することで被害が顕在化することを防ぐことである。本マニュアルにおいては、「早期発見」等により、カワヒバリガイが農業水利施設に侵入することを防ぎ、さらに「ライニング施工」等でカワヒバリガイが農業水利施設に着底・固着することを防ぐことを指す。

■ 除去・抑制

再び導入することなしには個体群が回復することのないように、外来種の個体と繁殖を除去することを「根絶」と呼ぶが、カワヒバリガイにおいては完全なる「根絶」を目指すことが難しい。よって、本マニュアルにおいては、「除去」という文言を用い、「掻き出し」や「干出し」等の手法を用いて、農業水利施設に既に固着しているカワヒバリガイを取り除き、新たな個体の発生（大量発生）や分布域の拡大を抑え、個体群が存続してもその悪影響が問題とはならない程度にとどめておくことを指す。

■ ライニング

老朽化した水路や配管内部等を洗浄してサビやコブ等を取り除き、エポキシ樹脂等を塗膜させることにより、腐食を防止する工法。工期が短く、低コストで、耐久年数を効率的に上げることができる。

■ 特定外来生物

外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものの中から指定される。特定外来生物としての規制は、生きているものに限られ、個体だけではなく卵、種子、器官等も含まれる。特定外来生物に指定された種は、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入といった取扱いが規制される。

■ D型幼生

二枚貝類はふ化後、間もなくアルファベットのDの形をした殻を持った幼生になり、これをD型幼生と呼ぶ。

■ 殻頂期幼生

D型幼生より変態した幼生であり、蝶番の有無等、形態的にD型幼生と異なる。

■ 着底

カワヒバリガイの幼生が水路壁等の基盤に付着すること。着底後、好適環境まで移動し、足糸で基盤に固着する。

■ 固着

カワヒバリガイが水路壁等の基盤にしっかりとくっつくこと。